

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470104476		
法人名	医療法人 社団 恵宣会		
事業所名	グループホーム あき・なごみの家		
所在地 (電話番号)	広島市安芸区船越三丁目7-24 (電話) 082-821-2873		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成 21年 9月 17日	評価確定日	平成 21年10月 2日

【情報提供票より】(21年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	10.6人

(2)建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄 筋 造 り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 ~ 52,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8 月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	49 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 恵宣会 なごみクリニック/あきクリニック、うえはら歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バス通りに面した安芸区役所から通りを四つ奥に入った所に「グループホーム あき・なごみの家」はある。周囲には地元中小企業や商店、保育所、住宅やマンションが立ち並んでいる。隣接する「あきクリニック」は経営母体が一緒に、医師や看護師による毎日のバイタルチェックや健康管理が行われている。利用者の健康状態の把握、何かあった場合にも適切な医療を受けることができる。
現在は認知症が重度な利用者は少なく、職員と多くの利用者が一緒に家事や掃除をしている。利用者と職員は和やかな会話を交わし、利用者が笑顔で穏やかに過ごしている。管理者をはじめ職員は理念である「人にやさしく。プロであれ。」という意識を持ち、利用者として接している。「地域に開けたホームにしたい」という思いで地域に密着したホームづくりを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、①「ホーム便り」等を作成する、家族への報告、② 苦情相談窓口の具体的な明記、であった。改善課題についてミーティング等で話し合い、①は請求書のコメント欄に担当職員による1か月の様子を書き加えるように改善した。(家族からも好評を得ている。) ②は重要事項説明書に行政機関の窓口を明記した。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的をよく理解し、職員全員で取り組み、サービスの質の向上に向けて自己評価を行っている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に1回会議を開催している。メンバーは町内会長、地域包括支援センター担当職員、他のグループホーム長、利用者代表、家族代表、職員である。2か月間に行われたホームの行事や様子を写真付きの資料で報告し、メンバーから意見をもらっている。管理者は他ホームの運営推進会議にも参加し、参考にしたり連携をはかっている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用料支払い直接ホームの窓口で行ってもらい、その時に必ず家族と職員で意見や情報交換をしている。昨年10月から請求書のコメント欄に1か月の利用者の様子をのせるようにし、近況報告をしたり、行事へのお誘いをしたりしている。 意見や苦情は直接言いやすい関係作りができており、ご意見箱の設置や重要事項説明書に行政への相談窓口の明記もしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、町内会長からいろいろな声かけをしてもらっている。清掃活動に利用者や職員が参加したり、春・秋祭りや近所の保育所へ行事の見学に行ったり、近所のスーパーへ利用者と職員でほとんど毎日で出かけていたりしている。 「地域に開けたホーム」を目差しているが、今後はホーム行事へ地域の人の参加を増やしたり、ボランティアの協力を得て、更にさらなる地域交流の深まりを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「人にやさしく。プロであれ。」を掲げ、さらにこれをベースにした5の運営方針が設定されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング、勉強会や日々のケアの中、機会あるごとに徹底と共有化が図られている。「家庭的な雰囲気の中で生活してほしい」「地域に根づいたホーム」を目指して、毎日のケアにあたっている。理念と運営方針はスタッフルームに掲示してある。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会長から行事がある時には声をかけてもらっている。地域清掃には利用者と職員で参加したり、夏・秋祭り、区民祭り等に参加している。近所の保育所の行事にも出かけるなど地域との交流を深める努力がなされている。		区民センターや公民館でボランティアグループ(演奏や演芸、趣味など)とのつながりをつくり、地域交流をさらに深める努力を望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で取り組み、職員からも率直な意見が出されている。また、前回の要改善点についても、職員同士で話し合い、改善に向けて取り組み成果をあげている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催されている。メンバーは町内会長、地域包括支援センター担当職員、他のグループホーム長、利用者代表、家族代表、職員である。2か月間に行われた行事やホーム内での出来事等を報告している。出席者からは積極的なアドバイスをもらっている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区担当者のアドバイスにより、8事業所で「安芸地区事業所交流会」を立ち上げ、現在は事務局を担当している。 区の高齢者福祉課にはよく出向き報告や相談を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年10月から請求書のコメント欄に、利用者の1か月の様子をのせるようにし、家族から好評を得ている。 利用料支払方法をホームの事務所で直接払うようにしており、最低でも月に1回は面会に来てもらっている。あらゆる機会をとらえてご家族との頻繁な情報交換を行うように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談窓口の明記の他、ご家族がいつでも苦情や意見がいえる雰囲気づくりがなされている。 職員は家族とコミュニケーションを図り、苦情や意見が出た場合は即刻改善するよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに異動や離職はほとんどない。家族からも同じ職員が対応することに安心感を得てもらっている。万一代わった場合でも他の職員でフォローし合えるよう、普段から利用者全員の状態を把握し、利用者個々にあった対応を全職員ができるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、定期的な勉強会など、職員の意識・知識の向上に向けて取り組んでいる。 管理者やリーダーは外部研修を受ける機会があるが、職員はほとんど受けていない。	○	全職員がレベルに応じた研修を受け、スキルアップがはかれるような体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「安芸地区事業所交流会」の事務局を引き受けている。 8法人の事業所の、主に管理者が勉強会・情報交換会を行っている。今後は職員も参加できる方向にしていきたい。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前見学・面接を行い、納得した上でサービスを利用してもらっている。入居後もできるだけ早く慣れてもらえるよう、家族と電話連絡を取りあったり、生活歴の把握に努めている。 やむを得ず急な利用に至った場合は、様々な声かけを試みて、利用者が少しでも早く馴染める雰囲気を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という関係ではなく、喜怒哀楽を共にし、家族のように支えあう関係づくりがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者へ声をかけ、思いや希望がかなえられるようにできる限り努めている。 昨年からは、個人記録の形式を変え、「本人の思いを、できるだけ本人の言葉で・」記入するようにし、より正確な利用者の思いの把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるよう、また今持っている力が少しでも長く維持できるよう、本人・家族・必要な関係者で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、計画作成担当者と職員で課題の進捗チェックを行い、見直しを行っている。状況が変わった場合は、必要な関係者で現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の通院・受診、買物、特別な外出支援など、ご家族とも話し合いながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接するクリニックでの週3回の受診・往診以外に、本人や家族の希望するかかりつけ医への通院・受診支援をしている。家族が付き添えない時は職員が同行し、医師に利用者の状態を詳しく伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を大切に、ホームでできる限りのケアを行うが、医療面での対応ができない場合は、家族・医師と相談して病院へ移ってもらうようにしている。利用契約時に家族にこの旨を説明し、同意書を交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを大切にし、利用者の誇りを傷つけない声かけや対応を行っている。勉強会でも尊厳について職員の意識向上を図っている。記録等はスタッフルームで厳重に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の大まかな流れはあるが、声かけをして話を聞き、利用者の希望にできるだけ添えるよう対応している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れて、職員が献立を考えている。誕生日など特別な日は本人の希望するメニューにしている。買物、調理、盛りつけ、片付けもできる人が職員と一緒にしている。 職員は同じテーブルで同じ食事をし、さりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全ての利用者が週3回入浴できるようできるだけ希望に添って対応している。若い職員による介助では恥ずかしかる利用者には配慮をし、安全に気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買物、散歩、食事の支度、洗濯物たたみ、掃除、ゲーム、ぬりえ、野菜作り、カラオケなど、毎日の生活で利用者ができる事を一緒にしている。 誕生会や花見、そうめん流し、お好み焼き作り、夕涼み、外食など、楽しみごとも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて、毎日の散歩や買物に出かけているが、行く人に偏りがある。		更に、外出機会が増えるよう工夫されることを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解している。日中は玄関にセンサーを設置し、見守りを重視している。居室は鍵をかけず、いつでも自由に出入りできるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行い、次回は10月に地元消防団に来てもらい、開催する予定である。 緊急時には近所に住む町内会長に手伝いをお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事になるようにしている。刻み、おかゆなど、一人ひとりの状態に合わせた食事を支援している。毎食摂取量も記録している。水分摂取量は記録していないが、食事、おやつ、入浴後などこまめに水分補給をしている。摂取量の少ない人にはお茶ゼリーや好みの飲み物、スポーツ飲料を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設臭に特に気を配り、居室やトイレは清潔に保つようになっている。 利用者が心地よく過ごせるように、リビングには季節の飾り付けをし、職員は利用者と一緒に楽しい会話を交わし、明るい雰囲気作りを心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・ベッドは利用者と家族が馴染みの物や使いやすい物を持ち込んでいる。仏壇を置いたり、写真やぬりえで思い思いの飾り付けをしている。 一人一人がゆったりとくつろげる清潔な居室になっている。各ユニット1部屋ずつトイレ付きの部屋がある。		

NPO インタッチサービス 広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所独自の理念を掲げて、地域の中のグループホームを大切に、地域に密着したホームとなる事を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示しており、職員間で共有するように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内の催し物・行事等積極的に参加している。家族に対しても、施設近辺の方々との交流を深める努力をしている事を随時報告している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣住民・保育園児等地域の方々ともふれあいがあり、気軽に挨拶して頂いて、こちらからも積極的に挨拶等声をかけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動・行事等に声を掛けて貰い積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で構成員の町内会長から認知症高齢者介護についての質問・相談を受けて暮らしに役立つアドバイス等を行っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価で施設での取り組みを振り返り、外部評価にて第三者からの視点でホームをチェックして貰い、より良いサービス提供へ活かせる様取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	構成員からの意見等を持ち帰り、より良いサービス提供に向けて改善・検討を行い、サービス状況を2ヶ月に1度報告している。他施設の会議にも参加し、その連携も図っている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	同地区の他施設との交流会を発足し、市と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	かけはし・成年後見制度については、勉強会を開催して知識を深め、成年後見人制度が必要な入居者に関しては、必要に応じて支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会等にて虐待防止の徹底に取り組んでいる。日々の申し送りにて声を掛け合っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明をきちんと行い、同意を持って納得して貰っている。契約変更等があれば、文章にてあらかじめ通知して、再度同意・説明の手順を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	常日頃から利用者と信頼関係を築けるよう取り組んでおり、訴え易い関係を目指している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度は面会に来て貰えるように利用料支払時には来所を依頼している。その際それぞれの日々の生活状況を報告している。昨年10月より利用料の請求書にもコメント欄を設けて1ヶ月の様子をお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置し面会時に記入出来るようにしている。またスタッフへ直接伝えて貰える様、日々家族とのコミュニケーションを図り、意見を乞える関係を構築している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に意見・指導を聞く機会を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化・要望に柔軟な対応が出来るよう、職員確保・勤務調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は、職員の異動や離職を必要最小限に抑え、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者や職員を段階に応じて育成する為の研修を受ける機会を設けている。又定期的な勉強会を実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の方や他グループホームの方々と交流会や勉強会の機会を持ち、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	不定期ながらも親睦会を開催している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	一人一人の職員に対し状況を把握し、向上心を持って働けるよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談の窓口を設け、関わりを深く持つことによって信頼関係をより早く築けるよう工夫している		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者同様、窓口を設け、細かな相談まで対応できる工夫をしている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には他サービス利用も含め相談に応じている	○	色々な種類の相談にも対応できるよう、行政・他施設との連携を更に深めている。又、スタッフの知識の向上を図る努力をしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して、納得したうえでサービス利用していただく為、ケアマネや、家族、本人等としっかり相談しながら進めている。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、喜怒哀楽を共にし、様々な事に共感しながら支えあう関係を築いている。	○	時には感情的になる事もある為、スタッフに対して認知症理解への更なる習熟を行っている。
----	---	---------------------------------------	---	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、ご家族と喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築く努力をしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族がよりよい関係が築けるよう、スタッフが家族と密に情報提供等行い支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人のなじみの人や、場所の関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握しているが、利用者同士の係わり合いが難しい場合もある為、ドールセラピーなどを利用し関係を構築している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、相談やアドバイス等必要な支援をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望、意向の把握に努めている。生活の中で制限される部分もあり希望に添えないことも多い。	○	安全性を考慮し、制限される部分もあるが、なるべく希望や意向に近づける工夫を今後とも行っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の生活歴、環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めていきたい		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、嗜好、有する能力等の現状を総合的に把握できるように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすため、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しの際、対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の様子や、ケアの実践、結果、気づき等を個別記録に記入し、情報を職員、家族、必要な関係者と共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ミーティングやカンファレンスを定期的に行い柔軟な支援をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の催し物には積極的に参加し、民生委員や、消防機関等と協力しながら支援している。警察や教育機関などは接する機会があまりなく、交流できていない	○	引き続き地域のイベントや情報を集め、地域との交流を更に広げていけるよう努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の意向や必要に応じて、ケアマネージャーや他施設と話し合いの機会を設け他のサービスを利用する為の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、対象の利用者は居られないが、必要に応じて今後地域包括支援センターと協働していきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族等の希望の病院を受診され、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との関係を築きながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関にあきクリニック、なごみクリニックがあり、医師と関係を築きながら診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関のあきクリニック、なごみクリニックの看護師は入居者をよく把握しており気軽に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時安心して過ごせるよう、早期に退院できるように利用者の体調など随時聞き、病院や関係者と情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に家族に納得できる説明を行い同意書を交わし、早い段階から方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームケアとして、利用者がよりよい生活を送る為、できること、出来ない事を見極め今後の変化に備えて検討や準備体制を整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	利用者が別の居所へ移り住む際には家族、本人に係るケア関係者間で話し合いや情報交換を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援
(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人一人のペースに合わせた対応に努め、個人情報に関しては全職員が十分な配慮をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の自主的な部分を大切にし、常に入居者一人一人の人格を尊重できるような環境づくりをしている。	○	自主的な部分が時には入居者同士のトラブルを招く事がある為、常に気を配り必要であればスタッフが介入している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人のペースを大切にし、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみやおしゃれができるように支援している。理容・美容のお店でこだわりがある方は居られないが、月一回出張理美容が来ており本人の希望に応じて実施している。	○	本人の望む理美容院があればそちらに行くよう支援する用意がある。
----	--	--	---	---------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の好みや量を把握し、食べられないものがあれば代替りのものを用意するなど工夫をしている。準備や片付けも一緒に行っている。	○	食事制限がある方も居られ、意向に添えないこともある為、声掛けを行い、フルーツなどを代用している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が望む好みのもを一人一人の状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○	食事制限がある場合、他のものを代用しながらなるべく希望に添えるよう支援している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗やおむつの使用を減らす為、その方の排泄リズムにあわせトイレ誘導、声掛けを行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	全ての方に確実に週3回以上入浴していただけるよう曜日を決めて入浴しているが、臨機応変に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安心して気持ちよく休息し眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物や散歩など一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している 入居の際金銭管理同意書にて説明を行い同意を得ている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望で散歩や買い物などに出かけている。希望があれば出かけられるよう支援しているが、時間帯によっては難しいこともある。	○	時間帯は関係なく自由に戸外へ出かける為の工夫や安全対策を考えていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	普段はいけないところは、行事などに取り入れて出かけられる機会を作り支援している。又、ご家族参加の行事も行なっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり手紙のやり取りができるように支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族などにはいつでも気軽に訪問できるように声掛けをしたりコミュニケーションを図ったり工夫している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合はご家族の同意を得て最小限にとどめる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害は理解している。安全性を重視し、玄関にセンサーを設置し日中は施錠せず。居室にはいつでも出入りできるようにしている。通用口のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜通して利用者の所在や様子を職員は把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態や力に応じて危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒のないよう全スタッフで注意し、誤薬のないように薬の確認をし、火災に対しては年2回防火訓練を行なっている		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	職員全員で訓練を定期的に行なっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害に対しての勉強会をスタッフ全員で学び、取り組んでいる	○	もっと地域の人々の協力を得られるよう交流を深めていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の方とはコミュニケーションをとる心がけをし、入居者が充実できる暮らしを第一に考え、常に話し合いを行なっている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に一人一人観察し、声掛けを行い対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ個人的に薬について知る努力はしているが不十分である。医師の指示通り服薬できるよう支援している	○	勉強会を開き、引き続き薬についての知識(副作用・用法・用量など)を高めていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便表を作成し、排便状況を把握している。飲食物の工夫や身体を動かしていただくよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内が清潔に保てるよう支援している。毎月一回歯科往診にて定期的にメンテナンスを行なっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の状態に合わせた調理方法、カロリーを考慮し栄養バランスも考えメニューを作っている。水分摂取量の少ない方はお茶ゼリーなどで工夫し、飲水を勧めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出先からの帰宅後や、食事の前には必ず手洗いうがいをして頂くよう支援している。疑いがある時には、早急に医療機関を受診して頂き対応している。水分摂取量の少ない方はお茶ゼリーやスポーツ飲料などで飲水を勧めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理に努め、安全な食材の使用を心がけている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の花壇に植木や花を植えている。玄関には毎月季節に合わせた飾り付けを行なっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節の花を飾ったり、不快な音や光がないよう配慮している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者が1人になりたい時は居室があり、リビングにはソファがあり、入居者同士が自由に過ごせる工夫をしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、ご家族の写真、着慣れた服などご家族や本人と相談しながら居室作りを行い居心地よく過ごせる工夫をしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調整は利用者の状況に応じてこまめに行い、換気に配慮している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の身体機能を活かして安全で自立できる生活が送れるよう各所に手すりを備え、左右対称のトイレを設置し段差のない建物内部となっている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者同士で自由に過ごせる場所を確保し、一人一人のわかる力を活かせる様自立して暮らせるように工夫している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている。植木の水遣りを毎日して頂いている		

V サービスの成果に関する項目 A

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所独自の運営方針を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホームの玄関やスタッフルームの目につきやすい場所に他の公開資料と一緒にファイルしており、日常ケア活動に生かすべく努力に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の中の施設であることを大切にし、かつ地域に密着した施設となることを目指し、病院受診や買い物も近隣で行っている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方と買い物途中で気軽に声をかけ合い、日常的な付き合いも盛んである。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の清掃活動及び夏祭りに参加し、地元の人々と交流することに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等を通じて、地域の自治会長に事業所やスタッフでできることがあれば、協力することを話し合っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価を理解し、評価を活かし改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の報告や話し合いを行なって、そこで出た意見を取り込み、サービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも地域での勉強会・講習会等を通じて当該担当者との行き来する機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会の中で地域権利擁護事業及び成年後見制度についての項目を掲げ、学んで活用できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内で虐待が見逃されないようにスタッフ間で協力している。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約及び解約時、利用者・家族の不安・疑問点を十分聞いているが、サービス利用中でも疑問点が出てくれば、その都度説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日頃より職員と入居者の良好な関係を構築しており、入居者が訴えやすい環境作りに努め、それらを運営に反映させている。外部者へ訴える機会はこれまでないが、訴え等があれば自由に言って貰い、それを妨げるものはない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態について、毎月の利用料支払の際に面会して頂いているので、その際お小遣いの収支も含め報告している。また特変があれば随時連絡も行っている。昨年10月から請求書にコメント欄を設けて、1ヶ月の様子をお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設け、いつでも記入して頂けるようにしている。また面会時意見交換出来るような信頼関係を構築している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催の勉強会後はその場で、また憂慮すべき問題が起きた場合は、速やかにミーティング等で時間を取り話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況の変化・要望に柔軟に対応が出来るよう必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	結婚・出産等を除きここ1年、職員の異動はあまりなく、利用者にとって馴染みの職員との関わりで日常が営まれている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の習熟度に応じた研修会参加や定期的な職場内の勉強会も設けている。また必要に応じて不定期の勉強会も開かれている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同地域のグループホームとの交流事業に参画し、情報交換、相互訪問、合同行事にも取り組んでいる		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	不定期ながらも親睦会を開催している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者や管理者は職員個々の働きや能力を把握している。状況に応じて仕事内容を変更するなど工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居者の訴え時はもちろん、その様子に応じてさりげなく声をかけるなどして、話を聴く機会を常時設けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	来所時、又は定期的な連絡等を通じ家族とのコミュニケーションを十分取り、信頼関係の構築に努め、話す機会を常時設けている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が望んでいるものを随時傾聴し、それを優先してサービスに組み込んでいる		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	環境に慣れて頂くことを第一に考え本人のペースに応じたサービスを展開している。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側にとどまらず、いわば家族であり、又時に人生の先輩としての念を忘れることなく共に歩む関係を構築している。		
----	---	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族に対して時に家族の思いも共感し、利用者を共に支えていく関係を構築している		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族会的な会合を開催し、利用者と家族と職員が良い関係を構築している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出等を通じてこれまでのなじみの人や場所と触れ合う機会を設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人一人の状況に応じて又それぞれの関係を見据えた支援を行なっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	施設での交流を通じた関係を大切にし、時候の挨拶等による近況報告、その後の相談・援助なども断ち切ることなく行われている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者のニーズを把握し、それを最優先にサービスを展開している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の多くの情報についてはフェイスシートにより把握を努めているが、入居時・入居後については、施設での暮らしぶりを通じて新たな情報を収集し、その周知に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録に1日の過ごし方・バイタルチェック・食事量等を記録し、統合的に把握できるように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がよりよく暮らす為にカンファレンスを行い、家族や必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い現状に即した新たな介護計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、職員・家族等と共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、その時々要望に応じてチームケアとして、ミーティングやカンファレンスを定期的に行い柔軟な支援をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の催し物には積極的に参加している。民生委員や消防署等には協力や配慮を行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	定期的に行なわれる会議において地域のほかのケアマネージャーやサービス事業者と話し合いの機会を設け、他のサービスを利用する為の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと緊密に連携を取り入居に至るなど、必要に応じて協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	近隣のかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関にあきクリニック・なごみクリニックがあり、医師と関係を築きながら診断や治療も受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤で看護職員を配備しており、隣接する医療機関の看護職とも連携を取り健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合は、定期的にホームから訪問して状況把握を行なうと共に、退院後の方向性について話し合う体制が整っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方、方針について入居時に家族に納得できる説明をした上で文書で同意を得ており、早い段階から方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームケアとして利用者がよりよい生活をおくために出来る事、出来ないことを見極め、今後の変化に備えて検討や準備態勢を整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	利用者が別の居所へ移り住む際には、家族、本人に係るケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、環境変化によるダメージを防ぐ事に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援
(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人を尊重した対応に努め、個人情報に関しては全職員が十分な配慮をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の自主的な部分を大切にし、全職員が常に入居者一人一人の人格を尊重できる環境づくりをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にし、できる限り利用者の希望に添えるような支援がなされている。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者の個性を尊重し、髪型・服装などおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。毎月出張理美容サービスを実施し希望者は利用している。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の好みや希望を取り入れたメニュー作りをしている。又、準備片づけ等一緒に行えるよう声掛けを工夫している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品は希望に合わせて提供している。又、買い物に同行し、好みのものを買ったり食べたりできるような生活の楽しみ作りの支援に取り組んでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	プライバシーに配慮して介助を行っている。排泄表を作り、排泄の対応方法を分かりやすく表記し個人にあわせた排泄介助が行えるように取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者一人一人の希望に合わせてできるだけ限り支援しているが時間帯に関しては入居者の満足のいくものではない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中活動していただききちんと夜間休息という生活のリズムを安定できるように支援している。時折不眠の方がおられる為、その時には声掛けや温かいお茶など差し上げ安眠に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人が自信を持ち、できることを最大限に発揮していただけるように援助を行っている。趣味、嗜好に合わせた生活を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の重要性を理解しており、本人、家族の了承を得て日頃は金庫にてまとめて保管してある。使用の際はなるべく本人に支払っていただくようそばで支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の食事や日々に必要な物品など入居者と買い物を楽しく行なえるよう支援している。	○	日々の買い物等、行く人に偏りがあるも、行事等にて外出の機会作りに努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	定期的な家族会や外出行事への参加を呼びかけ、家族や他入居者との親睦を図れるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて日常的に利用できるよう支援している。手紙など開封する場合は本人に確認を得て開封し、プライバシーに配慮しながら支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人の面会、交流を積極的に働きかけている。面会の機会は頻繁にあり、外出され墓参りや食事をされることも度々ある。家族との関係がよりよく築けるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体不拘束を職員全員で理解しており、正しく認識して援助を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・階段等一人で移動される場面では危険を伴う為、安全を配慮させて頂き施錠している。家族へは説明し同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は一人一人に注意深く目を向けて入居者の所在を把握し、特に徘徊時は見守り・誘導を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	調理用刃物については鍵付き引き出しに入れて管理し、薬品類については事務所にて保管している。注意の必要な物品は保管場所や管理方法を定め実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職場内の勉強会を通じ、危急時の対応を定期的を確認し、また年2回の避難訓練を行い個々に応じた事故防止に努めている。	○	あらゆる場面を想定し、今後は通報訓練の実施も予定している。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	上記同様に職場内の勉強会を通じ、危急時の対応を定期的を確認し、周知徹底している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震, 水害等の災害時に, 昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け, 日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	スタッフ間の非常連絡網を前提とした避難体制を構築している、また地域の方より災害時の避難箇所の指示を仰いでいる。	○	地域の方へ尚一層の災害時の協力を要請する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し, 抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居契約時、急変・事故等への対応に対して最善の対処を行うことを説明し、文書で同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め, 気付いた際には速やかに情報を共有し, 対応に結び付けている。	職員同士で入居者の変化、異変等の情報交換をしながら一人一人に合ったケアを行っている。		
74	○服薬支援 職員は, 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用, 用法や用量について理解しており, 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の使用する薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、誤薬のないよう工夫しており、指導どおり服薬できるよう支援し、症状の変化も確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は, 便秘の原因や及ぼす影響を理解し, 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便表を作成し、入居者の日々の排泄状況を記入し把握に努めている。予防とその対応の為に飲食物の工夫や、適度な運動を進めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように, 毎食後, 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを勧めている。義歯については夜間消毒を行っている。定期的に訪問歯科に来て貰い、専門的な指導を受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の毎食の摂取量を記録しており、適量を把握している。栄養バランスを考えた献立を作成し、個々に合った食事形態で盛り付け・器も工夫しながら支援している。また水分摂取量が少ない方は、(入浴後等は特に) スポーツ飲料などの飲水を勧めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者の帰宅後、食事前に必ず手洗い・うがいを行っている。職員も同様に手洗い・うがいを行い、食事の際にはエプロンを使用し、職員自身が菌を持ち込まない、持ち帰らない取り組みをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の食材の買い物を行い、冷凍など多くせず早く使い切っている。入居者に洗い物をして頂く時には、見守りを行い(洗浄等が)不十分な場合は、自尊心を傷つけないよう気をつけながら後で洗い直している。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	温もりのある大きな木で作成した表札を掲げ、一目で分かるように工夫を凝らしている。広い玄関前には外と内に傘たてを置き、外には観葉植物を置いている。玄関には四季に合わせて季節感のある飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関・居間・食堂には、四季に合わせて飾り付けをしている。不快な光には、カーテンで遮光の調節を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の中には自由に入出入り出来る様に開放し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は家族や職員と話し合い、入居者の使い慣れた家具の使用や、畳を好む入居者にはそれを敷いて和風にする等工夫を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気を使用し、また居室や入居者が集う場所では、個々の状態に合わせて調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	家庭的な雰囲気壊さないよう配慮しながらも廊下・浴室・トイレ等の要所には、必要に応じて手すり補助具を設置し自立した生活を送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	目線の高さを意識し、トイレの場所など大きく表示し、場所違いの防止策を工夫し自立を促している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りやリビングの棚に観葉植物を植えたり、ベランダにキュウリ・プチトマトを育て、利用者が収穫し楽しんでいる。		

V サービスの成果に関する項目 B

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目